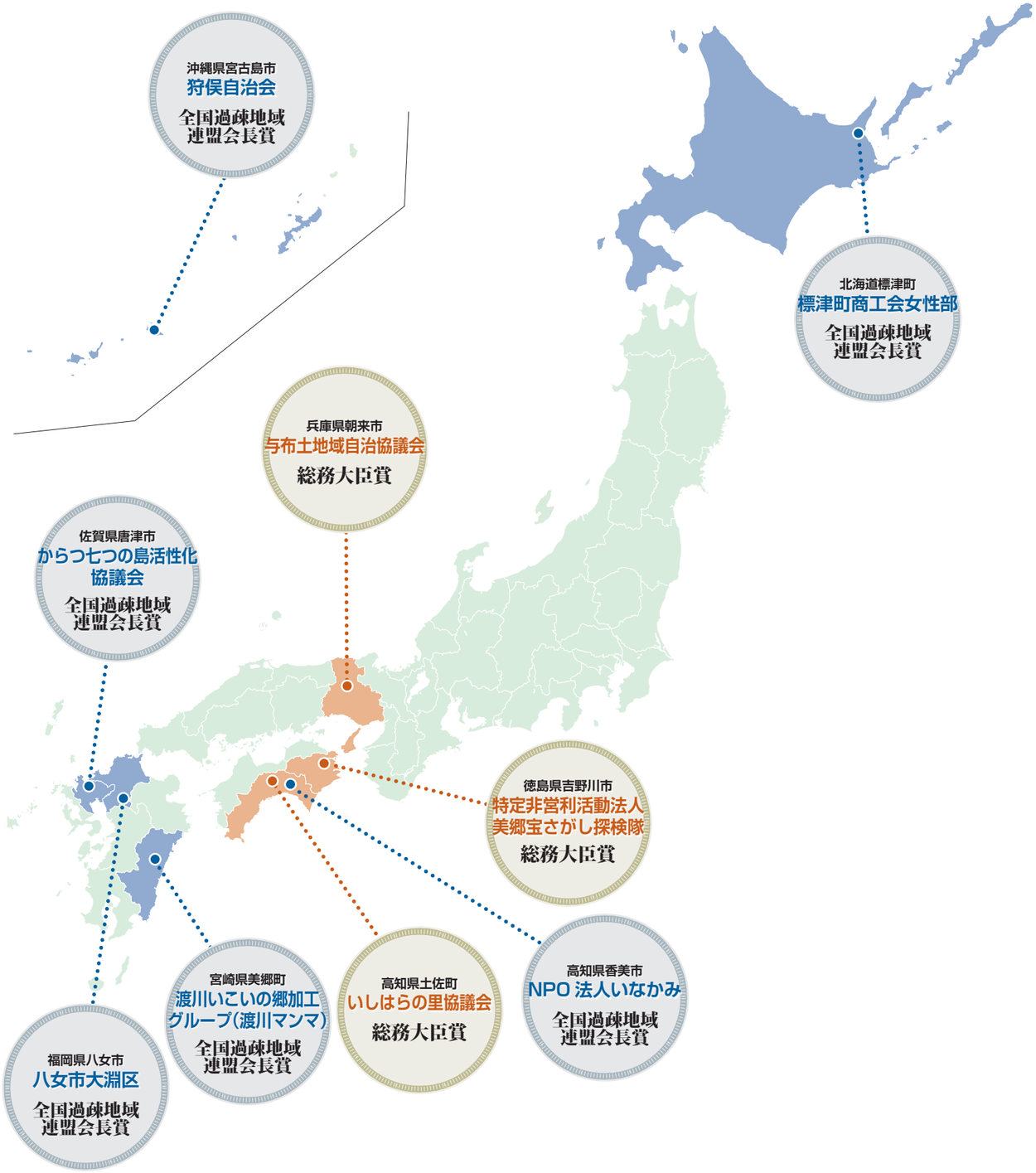
令和３年度

過疎地域持続的発展

優良事例表彰

総務省・全国過疎地域連盟

令和３年度　過疎地域持続的発展優良事例表彰受賞団体



表彰受賞団体一覧

総務大臣賞

兵庫県朝来市
与布土（よふど）地域自治協議会
好きです ふる里 よふど
創ります 未来（あした）の よふど

徳島県吉野川市
特定非営利活動法人美郷（みさと）宝さがし探検隊
美郷の「宝」を継承！

高知県土佐町
いしはらの里（さと）協議会
地域住民が運営する
「集落活動センターいしはらの里」

全国過疎地域連盟会長賞

北海道標津町
標津（しべつちょう）町 商工会女性部
「地元の魅力を再発見しよう！」

高知県香美市
NPO 法人いなかみ
持続可能な田舎を目指して

福岡県八女市
八女市大淵（やめしおおぶちく）区
「元気で、輝く大淵地区づくり」

佐賀県唐津市
からつ七つの島活性化協議会
ななつの島で宝さがし留学
～自分だけの宝さがしと第２のふるさととして～

宮崎県美郷町
渡川（どがわ）いこいの郷（さと）加工グループ（渡川（どがわ）マンマ）
私たちのできる地域づくり「高齢者向け配食サービス」を
通じた地域見守りと支え合い

沖縄県宮古島市
狩俣（かりまた）自治会
『つなぐ心』で持続可能な地域づくりを目指す
～優先順位は「幼・老・青・般」～

過疎地域持続的発展優良事例表彰制度の概要

今日、過疎地域では、人口減少、少子高齢化の進展など他の地域と比較して厳しい社会経済情勢が長期にわたり継続しており、地域社会を担う人材の確保、地域経済の活性化、情報化、交通機能の確保及び向上、医療提供体制の確保、教育環境の整備、集落の維持及び活性化、農地、森林等の適正な管理などが喫緊の課題となっています。

一方で、過疎地域は、食料、水及びエネルギーの安定的な供給、自然災害の発生の防止、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、多様な文化の継承、良好な景観の形成などの多面にわたる機能を有し、これらが発揮されることにより、国民の生活に豊かさと潤いを与え、国土の多様性を支えています。

こうした中で、過疎地域の課題の解決に資する動きを加速させ、これらの地域の自立に向けて、過疎地域における持続可能な地域社会の形成及び地域資源などを活用した地域活力の更なる向上が実現するよう、全力を挙げて取組むことが極めて重要です。

本制度は、地域の持続的発展と風格の醸成を目指し、過疎地域において課題の解決に取り組み、創意工夫が図られている優良事例について表彰を行います。

都道府県からの推薦 ≫

表彰委員による書類審査

- 地域の持続的発展・活性化について、先駆的・モデル的取組といえるか？
- 地域資源を活用し、地域の魅力を一層高めるものであるか？
- 地域の自主的・主体的な取組であり、住民の積極的な参加・連携が図られているか？
- 相当期間活動が継続し、その効果が既に定着していると考えられるか？

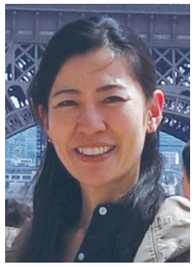
≫ **表彰委員による現地調査** ≫ **表彰委員会による優良事例の決定**

表彰式

日　　時：**令和３年11月４日（木）10時30分**
（オンラインにて開催）

令和３年度表彰委員会委員（敬称略）

委員長 **宮口 侗廸**（みやぐち としみち）
早稲田大学
名誉教授



委員 **秋田 典子**（あきた のりこ）
千葉大学大学院
園芸学研究科
教授

委員 **指出 一正**（さしで かずまさ）
株式会社 sotokoto online
代表取締役
『ソトコト』編集長

委員 **図司 直也**（ずし なおや）
法政大学
現代福祉学部
福祉コミュニティ学科
教授

委員 **平尾 由希**（ひらお ゆき）
株式会社 FOODSNOW 代表取締役
フードコーディネーター

委員長講評

宮口 侗廸

この表彰制度は平成２年度から始まり、今年度で32回目を数えます。私は平成12年の第４次過疎法制定のころから委員として参加し、この間多くの表彰地域を訪ねることができました。今年度は５人の委員が、コロナ禍のためオンラインの現地調査を行い、総務大臣賞３団体、連盟会長賞６団体を選ばせていただきました。

総務大臣賞に輝いた兵庫県朝来市の与布土地域自治協議会は旧小学校区ですが、６つの部会の多彩な活動を基本に、25年後を想定した活気ある地域像に向かって、太陽光発電、マルシェやカフェなど若者の活躍の場、農業体験や交流事業など、極めて多彩な活動を地域という基盤の中で展開され、これこそ地域づくりの王道といえます。同じく徳島県吉野川市の美郷宝さがし探検隊は旧村時代に結成され、合併後にはNPO法人として天然記念物をテーマにした美郷ほたる館の指定管理者となり、ほたる祭り、貴重な段畑の石積みのライトアップ、川遊び体験、梅酒まつりなど、活動は多岐にわたります。メンバーの高齢化の中で、若い世代を中心に新しいNPOが結成されて連携が始まった点を、特に評価したいと思います。続いて高知県土佐町のいしはらの里協議会も旧小学校区ですが、県が進めている集落活動センターの一環で設立され、合同会社で生活用品と石油の直販などの生活支援を進めただけではなく、林業人材も育っています。「いしはらの里未来会議」での移住者を含む活発な提案が、組織の再編を含め新しい展開を生んでいることも高く評価できます。

連盟会長賞に輝いた鮭の町北海道標津町の商工会女性部は、高齢者や子供の見守りなどで地域を支えることに加え、不振のサーモン科学館でのワインと標津町の食を堪能するイベントを思い立ち、科学館に人を集めてその価値をアピールすることにチャレンジしました。コロナ下で昨年から中止となりましたが、復活後の更なる展開を期待します。高知県香美市のNPOいなかみは、自然が豊かでかつ市街地へのアクセスも兼ね備える地域で市立移住定住交流センターを運営し、子育て世帯への支援も手厚く、多くの移住実績を挙げています。魅力ある移住応援サイトは新しい道具SNSの効力をいかんなく発揮しており、柔らかい真摯な対応が大きな移住実績につながっています。福岡県八女市の大渕区では、途絶えた夏祭りに代えて、手づくりの大きな灯篭に亡き人の名を書き、100個近くをお盆の夜空に高く上げる幻想的な祭りを創造しました。加えて、彼岸花が咲き誇る棚田を復活して無農薬米も完売するなど、地域の価値に目覚めた世代を超えた活動が育ちつつあります。佐賀県唐津市のからつ七つの島活性化協議会は、うち４島で「ななつの島で宝さがし留学」を開始し、すでに26名が留学しています。離島がネットワークを組んで共同作業のしくみを確立したことは稀有なことで、将来の強力な関係人口の基盤となります。島での「生きる教育」の価値は計り知れません。高齢化した集落で70歳を超える５人の女性たちが結成した宮崎県美郷町の渡川いこいの郷加工グループは、「渡川マンマ」という略称で高齢者40世帯に配食サービスを続けてきました。研修や地元に学んでのおかずの工夫や、配達時の声掛けや見守りなど、小さな集落の高齢者の貴重な活動として頭が下がります。沖縄県宮古島市の狩俣自治会は、役員の若返りを機に、中高生を含むワークショップで地域ビジョンを策定して高校生の通学と高齢者の通院にEV輸送を導入し、保育園の復園を実現しただけではなく、小さな拠点づくり事業で地元業者への発注で経済循環を図っています。沖縄特有の共同売店や字有地がある土地柄で、地域まるごと活性化が着実に進んでいます。

今年度の表彰団体は、市町村の中の旧村や旧小学校区、地区といった小さな単位での活動が目立ちました。人と人の絆がいい形で育ち、そこに関係人口が加われば、人口減少は恐れることではありません。過疎地域なればこそ可能な取組みが人の力で育ち得るのです。顔が見える小さな社会で、都市にはない価値を生み出しておられる表彰団体に心から敬意を表し、講評とさせていただきます。

総務大臣賞

与布土（よふど）地域自治協議会

好きです　ふる里　よふど
創ります　未来（あした）の　よふど

小学生が与布土地域の自然の中で遊びながら学ぶ「わくわくキャンプ」。若者がスタッフとして参画し、地域の活動を始めるきっかけになっている。

事例の概要

与布土地域自治協議会は、「かえるの郷部会」、「ごくらくの郷部会」、「みのりの郷部会」、「はぐくみの郷部会」、「すみやすい郷部会」、「つながりの郷部会」の６つの部会からなり、６つの部会が役割分担をしながら活力のある地域づくりを進めている。

少子高齢化、社会減による地域住民の急速な減少に伴う地域活力の低下が進み農地管理が困難になる中、現在の重点目標として、①若者の移住・定住促進、②高齢者の福祉対策、③農業振興・観光対策を掲げ、それぞれの目標について地に足の着いた取組を続けるとともに、災害時の電源確保や自主財源の確保のための太陽光発電のエネルギーの地産地消の取組も併せて行う。

会の活動は若者にも開かれており、年代を超えて価値観を共有し、マルシェやカフェ等の地域における若者の取組を会全体で支えることにより、若い世代の移住や関係人口が増加している。

安全安心な農作物の生産を広げ、元気な農業集落づくりや子育て環境の向上を目指す。

評価のポイント

「好きです　ふる里　よふど　創ります　未来（あした）の　よふど」をキャッチフレーズに持つ兵庫県朝来市の『与布土地域自治協議会』は、まさにローカル SDGs（地域循環共生圏）を体現するかのような活動を行っていることを高く評価したい。同協議会は主として６つの部会（かえるの郷部会、ごくらくの郷部会、みのりの郷部会、はぐくみの郷部会、すみやすい郷部会、つながりの郷部会）の活動からなり、人口減少や高齢者の増加、農業の後継者不足、環境の保全、地域の自治といった重要なテーマを中心に据え、25 年後を想定した視点をもとに地域運営に取り組んでいる。これは理想的なバックキャスティングの考え方である。与布土地域の人口は 499 世帯で 1180 人。コウノトリが飛来し、オオサンショウウオが生息する水循環の豊かな土地だ。大型の野生動物が安定して暮らせる土地は、その食物連鎖からも想像できるようにそもそもの農的なポテンシャルも高い。現在の重点目標には「若者の移住・定住促進」、「高齢者の福祉対策」及び「農業振興･観光対策」を掲げており、いずれも地に足のついた実態のある施策やプロジェクトをよどみなく続けている。また、災害時の電源確保や自主事業財源の確保のために旧・与布土小学校に太陽光発電のパネル（出力 48 キロワット）を 192 枚を設置した取組も注目に値する。ローカルエリアでのエネルギーの地産地消という面でもいいお手本となるだろう。

与布土地域における取組やイベントへの若者の参画に関しても、協議会の会長をはじめ、地区のリーダーたちによるやさしい心くばりが感じられた。マルシェやカフェ、交流会など若者のやってみたいローカルプロジェクトを協議会全体でバックアップしており、農業体験や交流を通じての若者の移住や関係人口も増えている。「関わりしろ」を多く持ち、地元の方のみでなく、移住者や関係人口による与布土地域での率先した活躍が、さらに増えていくことを期待したい。

調査の中で印象的だったのは、「5 年後、10 年後、30 年後の与布土地域がどうなっていたらうれしいか」という問いに対しての地区のリーダーたちの答えだった。「世帯数が増えること」「スーパーマーケットがオープンすること」「小学校が復活すること」など、現実を考えた段階を踏むビジョンを明確に描かれていた。朝来市役所の担当職員は地域活動にあたって、「地域に役に立つようにうまく翻訳する大切さ」とともに「与布土の活動はやりがいばかり」と語ってくれた。与布土地域には、未来を見据えたコミュニティビルディングの具体例が揃っている。

与布土地域では、農業や地域福祉や若者の地域活動等、多様な対話の場を開催することで、情報共有や合意形成をはじめ、地域住民の主体的な活動につなげている。

高齢化率約 41％の与布土地域では、いつまでも自分らしく生き生きと暮らせるよう、自分ができることを地域で発揮できる地域食堂等の支え合いの活動を展開している。

空家の片付けによる空家活用や新規就農者への農地・農機具のコーディネート等、移住者に寄り添い、移住前から移住後のフォローまで地域ぐるみの移住推進を展開している。

DATA

兵庫県 朝来市（あさごし）

団体名▶与布土地域自治協議会
所在地▶〒 669-5132 兵庫県朝来市山東町溝黒 366-1
連絡先▶ TEL：079-676-3030　FAX：079-676-3030
E-mail：yofudo-jichikyou@asago-net.jp
URL：http://asago-net.jp/users/yofudo-jichikyou

【交通のご案内】
自動車▶北近畿豊岡自動車道 和田山 IC より約 10 分
鉄　道▶（特急きのさきを利用）
JR 京都駅から和田山駅まで約１時間 45 分
（特急こうのとりを利用）
JR 新大阪駅から和田山駅まで約２時間 10 分
（特急はまかぜを利用）
JR 大阪駅から和田山駅まで約２時間 10 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
朝来市	47,118	36,850	36,069	34,791	32,814	30,805
朝来市（旧）山東町	8,734	7,029	6,392	6,203	5,932	5,549

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
朝来市	-34.6	-16.4	-14.6	-11.5	-6.1
朝来市（旧）山東町	-36.5	-21.1	-13.2	-10.5	-6.5

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
朝来市	33.2	7.3
朝来市（旧）山東町	34.6	7.0

総務大臣賞

特定非営利活動法人美郷 宝さがし探検隊

美郷の「宝」を継承！

美郷の四季折々の総合案内所である「美郷ほたる館」。夏には、多くのほたるが飛び交い、ほたる観察ツアーを開催している。

事例の概要

美郷の「宝」である文化や地域資源を守り伝える活動を通じ、住民が「宝」を自信と誇りとして生活できる環境の創造を目的として、ＮＰＯ法人のメンバーを中心に、天然記念物に指定される「川田川のホタル」、地域の産業「梅」、段々畑の「高開の石積み」などの地域資源を活用し、１年を通してほたる観察ツアー、石積みライトアップ、そば作り体験等をはじめ多くのイベントを継続して行なうとともに、ゲンジボタルの保護のための河川の清掃や、石積みの修復作業などの地域の豊かな自然環境保護のための活動を行っている。

また、石積みの修復作業について徳島大学の大学院生が立ち上げた一般社団法人「石積み学校」と連携を行い、みんなの文化祭や石積みライトアップ等のイベント等について地元の若い世代が新しく立ち上げた NPO 法人 Tane と連携するなど、活動の持続性が大いに期待できる。

にほんの里 100 選にも選ばれた高開の石積み。冬には幻想的にライトアップされる。

評価のポイント

美郷宝さがし探検隊の活動は、平成 10 年、旧美郷村時代に遡る。国の天然記念物のほたるを資源とする美郷ほたるまつりは昭和 62 年に始まっており、村の職員を中心に活動をしていたが、平成 12 年に村が拠点として美郷ほたる館を整備したことがきっかけで、活動が活発化した。その後村に来訪した徳島文理大学の教員が高開地区の段々畑の石積みの見事さを指摘し、地元でも貴重な遺産と認識されるようになる。

平成 16 年に美郷村を含む 4 町村が合併して吉野川市が生まれ、翌 17 年には高開の石積みが整備され、所有者が石積みにシバザクラを植え始めた。村役場がなくなり探検隊は商工会が預かる形になったが、その後市がほたる館を指定管理にする方針を打ち出したことを機に、平成 22 年に探検隊を NPO 法人として組織化、平成 23 年からほたる館の指定管理を受けることとし、現在までその体制は続いている。

美郷宝さがし探検隊は、1 月から順に炭焼き体験、梅の花まつり、石積みシバザクラまつり、ほたる祭り、川遊び体験、河童教室、そば作り体験、みんなの文化祭、石積み学校、梅酒まつり、石積みライトアップなど、きわめて多くの催しを支えており、イベント以外にも川田川の清掃活動、石積みの修復を外部の人の参加も交えて行っている。

大学、企業等との交流事業も積極的に行っており、徳島文理大学、徳島大学、四国大学等の大学や、いろはす、アサヒビール、日亜化学等の企業との連携プロジェクトなどを実施している。中でも、石積みに通っていた徳島大学の大学院生が一般社団法人「石積み学校」を立ち上げ、美郷を中心に企業の研修等を巻き込んで活動を始め、年 2 回石積み学校を開催していることは特筆すべきことである。

これだけのイベントを支えている NPO の主要メンバーは 15 人程度であり、イベント毎に 5 ～ 10 人程度が役割分担している。これまでの長期にわたる活動は極めて貴重であるが、この主要メンバーはほとんど 70 歳前後であり、これだけの活動を持続していけるか危ぶまれることもあった。しかし昨年、みんなの文化祭や石積みライトアップを手伝う地元の若い世代を中心に新しい NPO 法人 Tane が結成され、連携が始まったことにより、活動の持続性が大いに期待できるようになった。

山間の過疎地域で地域の NPO 法人を中心に、地域の宝を磨くこれだけ多くのイベントが続けられている例はあまり知らない。これだけの活動の継続は簡単なことではないが、昨年、若い世代の新しい NPO 法人が誕生し、イベントの実施での両者の連携が生まれつつあることは、地域の宝を磨く作業の持続的発展に大きな力となると考える。これは普遍的に良い見本となる動きであり、この点を大きく評価したい。

梅の里でもある美郷。梅酒特区に認定されている美郷では毎年 11 月に、酒蔵（5 蔵）および農家民宿（3 軒）と連携して、美郷梅酒まつりが開催されている。

石積みの文化や職人の技・伝統を後世に引き継ごうと「一般社団法人　石積み学校」が生まれた。研修を受けたい企業と石積みを修復してほしい地域とをマッチングする学校。

「まぁーやってみんで」考えるよりやってみる精神で、地域に人を呼び交流している。興味を持つ若者も集い、地域活性化団体 NPO 法人 Tane が生まれるきっかけにも貢献。

DATA

徳島県 吉野川市（よしのがわし）

団体名▶特定非営利活動法人　美郷宝さがし探検隊
所在地▶〒 779-3051 徳島県吉野川市美郷字宗田 82 番地 1
連絡先▶ TEL：0883-43-2888　FAX：0883-26-7010
E-mail：hotarukan@cnet-oe.ne.jp
URL：https://www.misato-hotarukan.jp/

【交通のご案内】

自動車▶徳島自動車道利用　脇町ＩＣより約 20 分
一般道利用（国道 192 号・国道 193 号）　徳島市より約 1 時間 10 分
鉄　道▶ＪＲ徳島線利用
徳島駅から阿波山川駅まで約 1 時間／阿波池田駅から阿波山川駅まで約 1 時間
阿波山川駅から車で約 10 分
航　路▶高松空港から車で約 1 時間
徳島阿波おどり空港から車で約 1 時間 40 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
吉野川市	51,640	48,677	46,794	45,782	44,020	41,466
吉野川市（旧）美郷村	4,807	2,256	1,417	1,249	1,132	957

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
吉野川市	-19.7	-14.8	-11.4	-9.4	-5.8
吉野川市（旧）美郷村	-80.1	-57.6	-32.5	-23.4	-15.5

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
吉野川市	34.6	11.1
吉野川市（旧）美郷村	52.4	6.7

総務大臣賞

いしはらの里協議会

地域住民が運営する「集落活動センターいしはらの里」

地域で稼ぐ場として直販所「やまさとの市」を設置。地域の農産物・山菜をはじめ、いしはらの里名物のタケノコ寿司は絶品。地域内外の方にも立ち寄ってもらえる場となっており、協議会メンバーで毎週日曜日に営業している。

事例の概要

いしはらの里協議会は、平成 24 年度から高知県が推進している集落活動センター事業に取り組み、現在ではガソリンスタンドや生活店舗「さとのみせ」、直販市「やまさとの市」の運営、「いしはら木の家」や石原コミュニティセンターでの宿泊事業、地元ならではの体験メニューを取り入れた着地型観光ツアーの受入などの経済活動のほか、七夕祭り等の交流イベントや県内外の大学実習の受入等の交流活動まで活動の幅を広げ、集落の維持・活性化につながる様々な取組を実施している。

また、地域の 40 代～ 50 代の若手が中心となって「いしはら未来会議」を立ち上げ、誰でも参加可能な意見を言い合える場として、地域課題の見直しや地域活性化に向けた新しいアイデアの発掘などを行っている。この会議で出た意見が、いしはらの里協議会で採用されるなど、今までの活動に新しい力が加わり、集落活動センター事業の継続発展に寄与している。

近年力を入れている体験プログラムの一つであるあめご掴みの様子。清流の女王であるアメゴを素手で取ることで童心に戻れると大変好評。

評価のポイント

高知県土佐町は人口約 4 千人の小規模な町であり、今回表彰の対象となる団体は、その中の石原地区という人口約 300 人の地区である。活動の始まりは、農協生活店舗の廃止と集落活動センター設置のためのワークショップであり、そこで「いしはらの里協議会」が設立される。いしはらの里協議会は、地区住民全員が参加する組織であるが、設立以降の活動の展開が極めて精力的であり、直販部、共同作業部、新エネルギー部、集い部という部会を設立し、さらに集落活動センターの経済活動を担う合同会社いしはらの里の設立によって、イベントの開催、移住者の受け入れ住宅建設、林業人材育成活動など、活動の幅を広げている。

いしはらの里協議会は、高知県が取り組んでいる「集落活動センター」の中でも、とくに先進的な団体であり、協議会自体がアクティブに動いているだけでなく、移住者や学生などの多様な主体が生き生きと地域で活動することが可能になる基盤としても注目すべきである。いしはらの里協議会の懐の深さを示しているのが、「いしはらの里未来会議」との関係である。いしはらの里未来会議は誰もが参加できる開かれたワークショップの場であり、移住者の提案などもここで発表されている。そこで提案された意見に基づき、いしはらの里協議会が組織の再編をしたことには感嘆した。このような自由な発言の場での意見を真摯に受け止める姿勢こそが、石原地区の活動力の源であると感じた。

更に、こうした活動を支えるもう１つの基盤となっているのが、土佐町の「地域担当職員制度」である。この仕組みは土佐町独自のものであり、土佐町役場の職員が自身の居住地区等の希望地区を担当し、住民活動をサポートする。小規模な町役場であっても縦割り行政によって、まちづくりに必要な総合力を育むことが難しい中で、土佐町の地域担当職員制度では職員が現場でまちづくりの実践力を磨くことが出来ている。こうした職員のサポートもあり、いしはらの里協議会は地域の自治を推進する基盤として常に地区住民を支える存在となっている。画面越しではあるが、良い雰囲気がこちら側にしっかり伝わってきた。現地を訪問してみたいと思える、おもてなし精神にあふれた素晴らしい地区である。

「いしはらのおきゃく」の様子。おきゃくとは土佐弁で酒飲みが集まって繰り広げる酒宴のことを言う。石原でも幅広い世代がおきゃくを通じて交流することをとても大事にしている。

毎年７月に開催している七夕祭り。地域住民が願いごとを短冊に書き、街中にライトアップされた笹を並べ、地域内外からたくさんの人が訪れるイベントとなっている。

いしはらの里未来会議の様子。この会議は 10 年後も誰もが安心して暮らせる石原をテーマに開催。住民や役場地区担当職員、大学生等が参加している。

DATA

高知県 土佐町（とさちょう）

団体名▶いしはらの里協議会
所在地▶〒 781-3334 高知県土佐郡土佐町西石原 1228
連絡先▶ TEL：0887-72-9328
E-mail：ishiharanosato@sound.ocn.ne.jp
URL：https://www.ishiharanosato.jp/

【交通のご案内】
自動車▶大豊 IC で下車、土佐町方面へ
車で約 30 分
鉄　道▶ JR 大杉駅で下車
その後車で約 30 分
航　路▶高知空港より車で約 1 時間

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
土佐町	8,734	6,663	5,036	4,632	4,358	3,997

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
土佐町	-54.2	-40.0	-20.6	-13.7	-8.3

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
土佐町	44.8	7.8

全国過疎地域
連盟会長賞

標津町（しべつちょう） 商工会女性部

「地元の魅力を再発見しよう！」

初めての試みにお客様の反応が心配であったが、科学館展望塔でのワイン会という異色コラボが沈みゆく田舎の風景と相まって、見事にはまった。

事例の概要

標津サーモンパーク内の売店やレストランが廃業し、地域のランドマーク「サーモン科学館」への来場者数が減少傾向にある中で、標津町商工会女性部の有志が、標津鮭や特産のブランドじゃがいも「花標津」といった標津町のこだわりの食材や加工品を活用した食事とワインの提供を通じ、サーモン科学館の多角的利用による活性化、集客力向上を目指す取組。サーモン科学館展望塔から見られる知床連山、国後島、標津川などの素晴らしい四季の景観を再確認し、町民の郷土愛を醸成するため、季節感のあるテーマによるサービスを提供したことにより町内外からの来場者があり、参加者からの好評を得た。

本事例は住民自らが地域資源を再認識し、自発的に取組を始めた点が特徴的であり、今後は地域を広く巻き込む形で息の長い活動が展開されることが期待される。

3回目の12月開催時にはクリスマスをイメージして行い、来場者の皆様にも好評であった。

評価のポイント

知床連山の麓に位置し、オホーツク海と山の壮大な自然が広がる標津町では、これまで、地域資源の『鮭』を主軸に据えたまちづくりを進めてきた。全国に先駆けて導入した地域HACCPを標津鮭の製品全てに適用して地域産品の品質を保証している他、町のランドマーク施設として『サーモン科学館』を設置し、交流人口の拡大や地域の子供達へのふるさと学習などに活用してきた。

しかし、発信力の弱さから町の認知度が上がらず、ランドマーク施設である標津サーモン科学館やサーモンパークにおいて、売店やレストランが廃業し、施設への客足が減少する中で、大人にも科学館や地域の食の魅力を再認識してもらい、町内外に広くPRしたいとの思いから、標津町商工会女性部の有志メンバーが立ち上がった。

地上30メートルの高さのサーモン科学館の展望塔から、知床連山、国後島、標津川などの雄大な眺望と共に、ワインと標津町の食を堪能できるおもてなしイベントを企画し、標津鮭や特産のブランドじゃがいも「花標津」を使用した特製の『鮭コロッケ』をはじめ、標津町のこだわりの食材や加工品を盛り合わせた食事に、ワイン5種類をペアリングするおしゃれなメニュー構成で、参加者の好評を得て、科学館への来場者数にも良い影響を与えた。

本イベントに関しては、食材経費が高額でありスタッフの人件費の捻出が難しいなどの課題はあるものの、初年度に補助金をユニフォームなどへの初期費用に充てたのちは運営において自走できる体制は整っていることから、今後は町外からも人を呼び込み息の長い取組になるよう、イベントで販売できる6次産業化商品を開発したり、飲食店にも標津鮭を提供してもらうなど、地域を広く巻き込んだ形でイベントが進化していくことを期待したい。

現在、ワインイベント自体は現状新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止せざるを得ない状況に陥っているものの、商工会女性部の取組はワインイベントにとどまらず、女性部発足から50年という長きに渡って、メンバーが代々、高齢者や子供の見守りなど、様々な地域に寄り添った活動を行ってきた。女性が元気な地域には活力がある。私業もある中で、地域のために自らが行動を興す姿勢を高く評価したい。

併設された飲食施設の突然の閉鎖により廃地に立たされてしまった科学館だが、地上30Mから眺める標津町は、朝日から夕陽までしっかり見ることができる絶景地である。

ワインに合う地元食材と考えるときに鮭とチーズ、地元でとれたジャガイモと鮭を入れた鮭コロッケ。皆さんに食べてもらえるチャンス！　そして鮭の燻製。有名な標津羊羹。

なんたって遠く、山々の稜線に沈みゆく夕日は素晴らしい！標津に住んで良かったと思える一瞬。田舎なればこその景色を遮るものは一切なく、何故か心が落ち着く。

DATA

北海道 標津町（しべつちょう）

団体名▶標津町商工会女性部
所在地▶〒086-1633 北海道標津郡標津町北3条西1丁目1番4号
連絡先▶ TEL：0153-82-2333　FAX：0153-82-3381
URL：https://shibetsucc.com

【交通のご案内】
自動車▶道東自動車道　阿寒ICより2時間10分
鉄　道▶ JR北海道釧路駅よりバスまたは車で2時間
JR北海道知床斜里駅より車で1時間
航　路▶根室中標津空港より車で25分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和35年	昭和55年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
標津町	7,727	7,730	6,298	6,063	5,646	5,242

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
標津町	-32.2	-32.2	-16.8	-13.5	-7.2

● 高齢者・若年者比率（H27年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
標津町	28.58	11.60

全国過疎地域
連盟会長賞

NPO 法人いなかみ

持続可能な田舎を目指して

地域交流イベント「いなかみマルシェ」を開催。ものづくりに取り組む移住者が出展し多くの来場者で賑わった。

事例の概要

中山間地域の急激な人口減少によって、集落の名前が地図から消え、そこに残る歴史や文化などが消失していく状況を目の当たりにし、田舎だからこそできる持続可能な社会づくりを目指したいと、地元の高知工科大学卒業生を中心とした有志が「NPO 法人いなかみ」を設立した。

香美市から「移住定住交流業務」の委託を受け、Web サイトを活用した移住に関する総合的な情報発信や、相談者に寄り添った相談対応、空き家や周辺地域の現地案内、移住交流体験ツアーの開催、お試し移住体験住宅の管理及び入居者のフォローアップ、定住相談と交流機会づくり等の活動を行い、同団体が関与した移住者数は平成 27 年度から令和２年度までで 93 組 169 名になる。

移住促進の取組では、空き家の掘り起こしは行政が担当し、親しみやすい情報発信等は同法人が担当するなど、行政と密に連携し、それぞれの得意分野を活かした役割分担が良くできている。

都市部で開催される移住相談会に参加。相談者の希望をしっかりヒアリングしつつ香美市の魅力や課題を紹介

評価のポイント

高知県香美市は、平成 18 年に香美郡香北町、土佐山田町、物部村が新設合併した自治体であり、高知市のベッドタウンという側面と、里山、奥山の自然豊かな地域という多様な側面を併せ持った自治体である。高知市や市街地へのアクセスがよく、こうした点は移住者の魅力になっていると考えられる。移住定住交流業務を担う NPO 法人いなかみは、香美市との連携、役割分担が非常に良くできており、ヒアリングにおいても良好な関係を感じることができた。移住定住交流施策に取り組む自治体が多いなかで、香美市において着実に移住者数が増加している理由として、以下の３点を挙げることができる。

第１は、香美市自体の移住環境の良さである。前述したように、アクセスの良さは移住のハードルを下げる。東京から飛行機で１時間 20 分、空港から香美市まで 20 分という距離は移住者にとって大きな魅力である。さらに、NPO 法人いなかみが業務委託を受けている「香美市ファミリーサポートセンター事業」により子育て世帯への支援も手厚い。移住と仕事は切り離すことができず、子育て支援は仕事の継続に欠かせない。教育についても香美市立大宮小学校が国際バカロレア認定校であることや、高知工科大学のキャンパスがあることなど質の高い教育機会が身近にあり、子育て世帯への安心感につながっている。

第２は、NPO 法人が移住業務を担うことによるメリットが複数あることである。行政が担当する場合と違って異動がなく、同じ人がずっと対応できる。また、良い意味で公平性を気にかけすぎる必要もなくなり、情報発信もしやすい。移住応援サイト「いなかみライフ」は作り込み過ぎず良い感じに肩の力が抜けて、気軽に読むことができる。移住や仕事の情報以外のコラム欄の人気記事も非常に面白く「10 年間東京に居たヤツがいきなり猟師するとこうなる」、「電車慣れした都会人が３回オロオロする「ワンマン列車」ってご存知」など、行政の広報誌には掲載が難しいけれど、つい読みたくなり、かつ移住者の役に立つ実にいい塩梅の構成になっている。

しかし、第３に、何より重要なのは、NPO 法人いなかみの地に足の着いた真摯で丁寧な対応である。NPO 法人いなかみの包み込むような柔らかな存在感が移住者へ安心感につながり、着実な移住者の獲得に繋がっていると感じた。

移住希望者と一緒にバスで地域を巡る移住体験ツアー。先輩移住者の話や空き家見学などを通して香美市の暮らしを体感いただく

地域には改修しないと住めない空き家がたくさん。大工さんに教えてもらいながら空き家の床を張り直すワークショップを実施

ブログ形式で香美市の情報を届けるいなかみライフ。約 30,000PV/ 月のアクセスがあり SNS とも連動させながら香美市を発信中

DATA

高知県 香美市（かみし）

団体名▶特定非営利法人　いなかみ
所在地▶〒 785-0076 高知県香美市土佐山田町本村 214
連絡先▶ TEL：0887-52-8606
E-mail：madoguchi@inakami.com
URL：http://inakami.net/

【交通のご案内】

自動車▶高知自動車道　南国 IC より約 15 分
国道 55 号　高知市街地より約 35 分
鉄　道▶ JR 土讃線（特急利用）
岡山から土佐山田駅まで約２時間 20 分
高松から土佐山田駅まで約１時間 55 分
高知から土佐山田駅まで約 15 分
航　路▶東京（羽田・成田）から約１時間 20 分
大阪（伊丹）から約 45 分
名古屋（小牧）から約１時間

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
香美市	43,319	33,878	31,175	30,257	28,766	27,513

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
香美市	-36.5	-18.8	-11.7	-9.1	-4.4

● 高齢者・若年者比率（H27 年）（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
香美市	36.7	15.1

全国過疎地域
連盟会長賞

八女市大淵区（やめしおおぶちく）

「元気で、輝く大淵地区づくり」

耕作放棄地を開墾し、コメと花を植えた棚田は、稲穂の黄金色と彼岸花の赤色のコントラストが絶景となる。

事例の概要

人口減少の著しい八女市大淵区では、人口の減少を食い止めることはできなくても、地域を元気いっぱいにできるよう、地元住民や有志等により平成 23 年度から様々な取り組みを行っている。

耕作放棄地の棚田を地域の子どもや高齢者が協力して住民自らが開墾し、田植えと花の栽培を行う「コメ花プロジェクト」では、地域の子ども会や高齢者の協力を得て、95a の耕作放棄地を開墾し、米や花の栽培及び農産物の販売を行っている。

また、地域の新しい夏祭り「大淵献燈祭」は、死者の霊を弔う祭りとして参加者を募り実行委員会を立ち上げ、平成 26 年度より始まった。お祭りで使用する燈篭には、八女市の伝統技術「和紙」と「竹ひごの加工技術」が活用されている。

「コメ花プロジェクト」及び「大淵献燈祭」の実施により、地域が八女市の新たな観光スポットとなり、地域の活性化や交流人口の増加に寄与している。

大淵献燈祭は、先人への感謝と故人との再会の場、そして未来への繁栄を願い毎年８月 14 日に開催される。

評価のポイント

八女市大淵区は、矢部川水系の中流域に位置し、茶と棚田での稲作を主体とした旧黒木町の中山間地域であり、417 世帯 959 人、高齢化率 55.8%（2021 年 8 月末現在）と人口減少が続く局面にある。

大淵区では、平成 21 年に大淵地区自治運営協議会を設立し、地域の諸団体を取り込む形で８つの部会による活動を展開し、「コメ花プロジェクト」は公民館部会の活動として平成 23 年に始まった。耕作放棄されていた棚田で彼岸花の群生地でもあった 95a を開墾、米の作付けを復活し、子どもたちと田植えや稲刈りを行ったり、花を植えて、定期的に草刈り作業も続けている。再生した棚田の無農薬米は毎年完売し、贈答用に販売する「舞姫のロマン」も好評を博す。また、彼岸花が満開となる秋口には直売所を開設し、常連の来訪者との交流が活動の張り合いにもなっている。再生した棚田は、地区の中心部から離れた高台にあり、長距離の水路管理作業にメンバーが加勢することで、周囲の農家の負担も軽減し喜ばれている。

大きな燈篭を夜空に上げ、死者を弔う「大淵献燈祭」は、地域の夏祭りの伝統が長く途絶え、それを昔経験していた若手の「さみしい」という声を受けて、平成 26 年に立ち上がった新たな夏祭りである。フィリピンのスカイランタンに着想を得て、試行錯誤の末、地域の伝統技術である「和紙」と「竹ひごの加工技術」を組み合わせた燈篭作りに成功したことから、高齢化してきた「コメ花プロジェクト」のメンバーに加え、地域の活動を後輩たちに伝えたいと幅広く声をかけ、実行委員会方式で運営する。地域の出身者もお盆を目指して帰省するようになり、また周辺からもお盆の弔いに燈篭を上げてもらいたいと依頼も入るなど、今では 100 個近い燈篭を手作りするまでになり、地元行事に根付いてきた。

このように２つの取り組みは、大淵区における有志の新たなチャレンジであり、地域づくりの息吹を次世代につなぐ大事な活動に育ちつつある。コメ花プロジェクトを通して、棚田が地域の象徴的な拠り所として見直された意義は大きく、この経験を周囲の地域資源の保全にどう活かすか、次世代の担い手育成も必要となろう。担い手の世代交代を見据えて、地域の行事や組織を見直していく「棚卸し」作業が求められる中で、大淵献燈祭は、地域住民の間、また世代間の風通しをよくする好機であり、上世代のリーダーたちもその場づくりを意識している。各々の取り組みに込められた地域の将来に寄せる志を高く評価し、次の展開を大いに期待したい。

稲刈りは、子どもも大人もみんなで行い、農作業に汗をながし、収穫の喜びを体験する。

棚田近くでは、期間限定の直売所を設置し、棚田米の予約販売受付や地元住民による地元農産物が販売される。

献燈祭に使用する燈篭は、地域の伝統文化である「竹ひごの加工技術」を組み合わせて、ひとつひとつ手作りする。

DATA

福岡県 八女市（やめし）

団体名▶八女市大淵区
所在地▶〒 834-1201 福岡県八女市黒木町大淵 3979-1
連絡先▶ TEL：0943-45-1163
E-mail：komehanapro@gmail.com

【交通のご案内】
自動車▶九州自動車道　八女 IC より約 35 分
九州自動車道　広川 IC より約 40 分
鉄　道▶ JR 鹿児島本線を利用
博多駅より羽犬塚駅まで約 1 時間
羽犬塚駅から車で約 45 分

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
八女市	101,573	85,078	76,689	73,262	69,057	64,408

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
八女市	-36.6	-24.3	-16.0	-12.1	-6.7

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
八女市	33.3	12.5

全国過疎地域
連盟会長賞

からつ七つの島活性化協議会

ななつの島で宝さがし留学
～自分だけの宝さがしと第２のふるさととして～

島留学の現地説明会の様子。島の暮らしや島で体験できることを島の方が教えてくれる。初めて釣りをする参加者も多く、喜ばれている。島の方も留学生が来るのを楽しみにしている。

事例の概要

玄界灘に浮かぶ「からつの七つの島」（「高島」、「神集島」、「小川島」、「加唐島」、「松島」、「馬渡島」、「向島」）では、子供の人口減少が大きな問題となっており、「島から子どもの声を絶やしたくない」との島民の想いから、平成 29 年度より島外の子どもを島の学校に受け入れる島留学の取組を開始し、高島、小川島、加唐島、馬渡島の４島で島留学生を受け入れた。

全国的に離島留学・山村留学事業が次々と立ち上がり、留学先の選択肢が多様化する中、離島特有の個性を生かした留学となるように協議会をはじめ、島民で構成する「島留学実行委員会」や学校と連携し留学生の受け入れを行っている。

島留学を経験し、島を出るときには「島の子ども」として旅立っていく。この島を第２のふるさととして帰ってきてほしいという願いの元、このような留学生が増えることは将来的な関係人口の増加につながっていく。

島留学の現地説明会の様子。
加唐小中学校の教室からは唐津の本土や長崎の島など見え、絶景が広がる。

評価のポイント

佐賀県唐津市の『からつ七つの島活性化協議会』では、「ななつの島で宝さがし留学」と称して、島留学を進めている。子どもたちを受け入れている島は高島、小川島、加唐島、馬渡島の４島で、平成 29 年より段階的に開始され、令和２年度までに延べ 26 名の島留学生が誕生した。地域に子どもたちが歩き、笑う姿が増えることは、過疎地域にとってはまちづくりの大きな一歩である。この持続性をまずは評価したい。

唐津市の集落支援員で、離島担当の方にお話をうかがったところ、「留学生たちは一年を通じて島の暮らしと学びを経験することで、島の四季の豊かさや、大人たちのあたたかさを感じ、島を第二のふるさととして感じ、成長してくれている」とのことで、将来的な関係人口となるベースが広がっていく施策のように感じた。島での授業や学校内での体験には「授業で釣り大会」や「みんなで給食」など、見るからに楽しそうな、子どものときにこそ体験しておくべき「生きる教育」がなされ、島の人との穏やかな交流の様子が伝わってくる。広報戦略もあり、とくに福岡や博多といった近隣の大都市圏からの家族での留学や個人での留学が多いとのことだが、都会の暮らしではどうしても得にくい、海と人に触れ合うことで培える、「いきものとしての力」が養えているだろう。実際、「漁師になりたい」「とにかく魚が好き」などといった親や子どもたちの夢や志向に面接で親身に対応をして、留学に適する島を細やかに振り分け、各人や家族の成長を促している。「留学したことで魚をさばくのが上手になった子も」という集落支援員の方の言葉に幸せな時間の蓄積を感じた。思いきって、全国の「釣り好き家族」に絞った広報を行っても響くくらい、島の時間は充実している。

これから必要となってくるのは、それぞれの島内にさらなる理解者（地域内関係人口）を増やし、負荷を軽減して受け入れ疲れを緩和していくこと、そして島に子どもたちやその家族が関わるため、あるいは居残っていくための、若い人を呼び込める産業づくりだろう。あわせて家族での移住者が地域に住むための物件の確保も並行して行うことも効果的かもしれない。集落支援員の方にこの仕事を続けている理由を聞くと「唐津のことが好きだから」との答えがあった。「好き」は何かを無理なく続けていくいちばんの原動力だ。若い家族が移住を行ううえでも、留学と島の産業づくり、二元の視点で集落支援員と協議会のみなさんが、どう戦略を編み出していくかがこれからますます楽しみである。

「七つの島対抗スポーツ大会」の様子。毎年、島を変え行っている。スポーツ大会よりもその後に行う懇親会が重要。年齢に関係なく交流が行われる。

定期的に唐津市七山で七つの島物産展を行っている。
商品の販売だけではなく、島同士の意見交換や交流の場にもなっている。若者も参加してくれるようになった。

先進地視察。以前は区長さんをはじめ、参加者の年齢層が高かったが、最近は若者の参加も増え、若者目線の島づくり、地域づくりが行われている地域への視察を行っている。

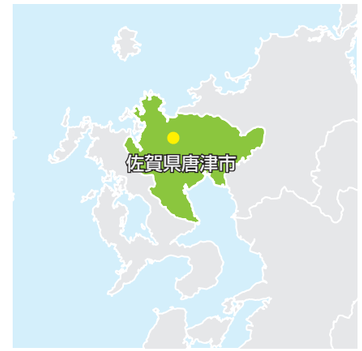
DATA

佐賀県 唐津市（からつし）

団体名▶からつ七つの島活性化協議会
所在地▶〒 847-8511 佐賀県唐津市西城内１番１号　唐津市役所未来創生部離島振興室内
連絡先▶ TEL：080-2758-9164
E-mail：karatsu.7islands.co@gmail.com
URL：http://7-islands.net/

【交通のご案内】

自動車▶西九州自動車道　唐津 IC　35 分
長崎自動車道　多久 IC　１時間
※航路発着所（呼子港）までの時間
鉄　道▶JR 筑肥線快速利用　博多駅から唐津駅　１時間 15 分
JR 筑肥線普通列車利用　博多駅から唐津駅　１時間 25 分
唐津駅から航路発着所（呼子港）までタクシー利用　30 分
航　路▶向島　星賀港から 15 分　加唐島　呼子港から 17 分
松島　呼子港から 15 分　馬渡島　呼子港から 39 分
小川島　呼子港から 20 分　名護屋港から 24 分



● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
唐津市	173,866	142,224	134,144	131,116	126,926	122,785
（旧）肥前町	14,576	11,118	9,125	8,660	7,883	6,982
（旧）鎮西町	11,178	8,626	7,402	6,906	6,258	5,442
（旧）呼子町	9,608	7,367	6,155	5,643	5,184	4,600

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
唐津市	-29.4	-13.7	-8.5	-6.4	-3.3
（旧）肥前町	-52.1	-37.2	-23.5	-19.4	-11.4
（旧）鎮西町	-51.3	-36.9	-26.5	-21.2	-13.0
（旧）呼子町	-52.1	-37.6	-25.3	-18.5	-11.3

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
唐津市	29.2	13.0
（旧）肥前町	35.2	11.5
（旧）鎮西町	34.4	10.8
（旧）呼子町	34.0	9.9

全国過疎地域
連盟会長賞

渡川（どがわ） いこいの郷（さと） 加工グループ（渡川（どがわ） マンマ）

私たちのできる地域づくり
「高齢者向け配食サービス」を通じた地域見守りと支え合い

事務局、会計、衛生管理、食材・器材調達、広報等と役割分担し、メンバー５人、みんなで力を合わせて運営している。

事例の概要

美郷町渡川地区では、有志女性５名（平均年齢 73 歳）による、「高齢者向け配食サービス」を通じた地域見守り活動を中心とした地域づくりの取組が行われている。

週２回、手作り弁当や、惣菜などを用意し、メンバーが手分けして高齢者宅へ配達し、声かけ・話し相手といった見守り活動を行っている。

高齢者が配食に頼り過ぎて逆効果にならないように、ご飯が炊ける人は自分で炊いてもらったり、残食のないように量を調整したり、季節を感じてもらえるように四季折々のおかずを入れるなど、一人一人に寄り添った献立を工夫している。

人口減少下においても、自分たちの住む地域を自分たちで守りたいという思いや、「地域が消滅する」という危機感への対応を「高齢者向け配食サービス」という取組で具体化している。

地域づくりを、高いスキルを持った移住者など、特別な人だけのものと捉えるのではなく、地域の問題を自分事と捉え、できることから実践し着実に取組を推進している。

配達先では、利用者とのコミュニケーションを大切にしながら、見守り活動を行っている。ついつい話し込んでしまうことも。

評価のポイント

小中学校の閉校や地元商店の閉店、地域の漬物加工場の事業継承問題などに直面し、自分たちの地域を自分たちで守るため「何歳からでも、誰でも、今からでもできる！」と、平均年齢 73 歳の婦人会の仲間５人が地域づくりに立ち上がった。

民生委員であったメンバーの一人が、一人暮らしのお年寄りを食の面からサポートする、「見守りを兼ねた高齢者向け配食サービス」を思いつき、ここから２年間、地区の全世帯の高齢者から聞き取りを行い、ニーズだけでなく、一人一人の食の好みやアレルギーなど、地域住民に寄り添った丁寧な調査を行った。更に、できる人にはご飯は自分で炊いてもらうなど、配食サービスに頼りきりにならないよう、自立を促す配慮をしている点も素晴らしい。

現在は週に２回、40 世帯に 40 個～ 60 個を配食している他、事業者などからの弁当の注文にも対応し、道の駅などに出品する加工品作りも行っている。月末に献立会議を行って内容を決める１個 350 円の弁当には、四季折々の旬の食材を使用したおかずを盛り込むことで季節を感じてもらうことを大切にしている。

最初の２年は材料費などの持ち出しも行なったが、現在は一ヶ月あたりの手当てを出すことができている。今後は収益の増加につながる取組として、５人の調理の腕を活かして長期保存できる加工品を作ることや、弁当の配達業務を外部委託することも検討しているが、弁当を配る際にお話しをする時間がなくなってしまうのは寂しいと感じており、取組の方法は模索していきたいとしている。

後継者の育成に関しては、定年を迎えて時間の余裕と経営手腕のある人が取組に賛同し、グループに参加してくれることを目標にグループの活動や意義を発信しており、若い世代の感性とも連携し、子ども達のふるさと学習の面でも良い効果をあげている。

渡川いこいの郷加工グループの素晴らしいところは、各種研修会、勉強会への参加に留まらず、地域の人たちから食を学び、吸収して、人に寄り添った調査と実証を行いながら、綿密に事業計画を立てている点である。

メンバーは「仲間と一緒に取り組むことの幸せを感じながら、弁当に幸せも一緒に詰めている」と話してくれた。地区住民が皆、家族のように寄り添って生きている渡川地区ならではのあたたかな取り組みは、食べることの大切さ、食の力を改めて考えさせられると同時に、過疎集落にあって、地域とともに生きる力強さを感じさせてくれる。高齢化の進む全国各地の過疎集落のお手本となる優良事例であると高く評価したい。

地元の旬の食材が使われており、美郷町の四季が感じられる。利用者が配食に頼り過ぎないよう配慮しつつも、アレルギーや好き嫌い等を聞き取り、それぞれに寄り添った弁当となっている。

自主財源を確保し、持続可能な活動とするため、加工品開発や販路開拓に積極的に取り組んでいる。

どがわ未来会議の様子。渡川地区は、世代間の連携・交流が盛んで、子どもから高齢者まで世代を超えて意見を交わし、地域の将来像を描く取組を行っている。

DATA

宮崎県 美郷町（みさとちょう）

団体名▶渡川いこいの郷加工グループ（渡川マンマ）
所在地▶〒 883-0303 宮崎県東臼杵郡美郷町南郷上渡川 425
連絡先▶ TEL：0982-59-8406（代表者自宅：黒木和子）
【交通のご案内】
自動車▶日向市（JR 日向市駅、日向 IC）から国道 327 号線で 35 分
鉄　道▶日豊本線日向市駅が最寄り
航　路▶宮崎空港から車で約２時間

● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
美郷町	19,410	10,709	7,509	6,874	6,248	5,480

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
美郷町	-71.8	-48.8	-27.0	-20.3	-12.3

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
美郷町	48.0	5.8

全国過疎地域
連盟会長賞

狩俣（かりまた） 自治会

『つなぐ心』で持続可能な地域づくりを目指す
～優先順位は「幼・老・青・般」～

狩俣小学校ガジュマルの木で遊ぶ狩俣っ子。小さな拠点づくり支援事業を活用し、ツリーハウスを建設する予定の場所。

事例の概要

狩俣自治会は令和４年３月19日には創立120周年を迎える歴史ある組織。10団体の下部組織からなり，地域の祭りやイベント、防犯活動から青年会活動、子供会活動までと幅広い活動を行っている。

令和２年に自治会の会長・総務・会計の３人の幹部が40代となり、自治会活動の継続・発展のための活動の方針と活動計画・新規事業を「狩俣版 SDG ｓ」として役員や住民に示したことで持続可能な地域づくりを目指す気運が高まり、令和２年度から EV シェアリング事業及び休園中の狩俣幼稚園の復活に取り組んだ。

また、県の 「小さな拠点づくり支援事業」を活用し、令和３年４月には地域ビジョン「『おいしい狩俣』新規事業計画書」を策定し、令和３年事業として地域活動拠点としての地域食堂の整備とツリーハウスの設置が進行中である。

小さな拠点作り事業では、工事や物品の購入に専門能力を持つ地元の業者を活用して地区内の経済の循環を図る「餅屋システム」が活用され、地域内での経済の循環に寄与している。

狩俣集落センターにて　毎月１日実施の狩俣自治会定例役員会の様子。

評価のポイント

狩俣自治会は、宮古島の北端、旧平良市の一部で池間島への池間大橋に続く半島の根元にある字狩俣の住民組織である。令和４年に創立120年を迎える、宮古島で最も歴史ある自治会といわれ、集落は石垣とフクギを持つ家が密集した集落である。

狩俣自治会には下部組織が10団体あり、宮古島の中では以前から活動が活発な地区として知られていた。宮古島市からの SDGs の運動を起こす働きかけを受け、令和元年度に市の主催で中高生を含めて何度もワークショップを開催し、地域の課題を議論した。その流れの中で自治会役員の若返りが図られ、令和２年４月に会長・総務・会計の３人の幹部はすべて40代となった。

その後、県が市の紹介で狩俣地区を小さな拠点づくりの支援事業に採択し、自治会では令和２年10月から年度内に県や市の関係者を交えて10回以上の会議を重ね、自治会として令和３年４月に地域ビジョン「『おいしい狩俣』新規事業計画書」を策定した。その中で令和２年度から動き出したものが、EV の導入による高校生の通学と高齢者の通院のサポートと、保育園の復活への働きかけである。保育園は入園者の減少で休園になっていたが、外部に通わせている家庭と話し合いを重ね、入園者の基準を上回ることによって、令和３年４月からの復園を実現した。

狩俣地区には29haの字有地があり、農地や車エビ養殖事業者からの地代収入約800万円が自治会の主たる収入源である。EV は中古を地区内の企業が購入して自治会がリースする形をとっている。

また、令和２年度から動いている「餅屋システム」は、工事や物品の購入に専門能力を持つ地元の業者を活用して地区内の経済の循環を図るシステムで、EV 及び充電スタンドのみならず、外灯の LED 化の発注、現在進行中の小さな拠点づくり事業等で活用されている。

令和３年度事業として、小さな拠点づくり支援事業では地域食堂の整備とツリーハウスの設置が進行中であり、いつも人が集まれる場所として期待されている。これも餅屋システムによる発注と、地域からの様々な応援が予定されている。

地域ビジョンの実現への作業は始まったばかりであるが、自治会役員が若返ってから、これだけ短時間での着実でスピードのある展開はあまり例を見ない。地域社会をいい形でまるごと未来につなげようという、おおらかさも貴重である。発展途上ではあるが、自治会単位の取組みとしては出色であり、今後の一層の発展が期待される。

狩俣地区は三方を海に囲まれた自然豊かな地域。その狩俣近海で獲れた新鮮な海の幸（伊勢エビ、島タコ、海ブドウなど）。

狩俣小学校前にて　狩俣自治会交通防犯支部による春の交通安全運動の一環で、小学校通学路で交通整理をする自治会の方。

自治会が運営する電気自動車相乗りサポートに活用し、高校生の通学や高齢者の通院などに利用されている。電気自動車は、太陽光パネルで発電した電気を活用し運行している。

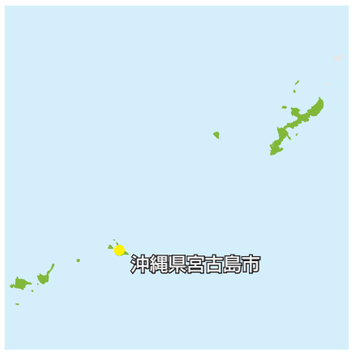
DATA

沖縄県 宮古島市（みやこじまし）

団体名▶狩俣自治会
所在地▶〒906-0002 沖縄県宮古島市平良狩俣 1255-1
連絡先▶ TEL：0980-72-5051

【交通のご案内】

航　路▶羽田空港より宮古空港まで約３時間
成田空港より下地島空港まで約２時間 50 分
那覇空港より宮古空港（下地島空港）まで約 50 分
（他に関西、神戸、名古屋直行便あり）



● 国勢調査人口　（単位：人）

市町村名	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年
宮古島市	69,443	58,797	54,249	53,493	52,039	51,186

●人口増減率　（単位：%）

市町村名	H27/S35	H27/S55	H27/H12	H27/H17	H27/H22
宮古島市	-26.3	-12.9	-5.6	-4.3	-1.6

● 高齢者・若年者比率（H27 年）　（単位：%）

市町村名	高齢者比率	若年者比率
宮古島市	24.9	10.7

総務大臣賞　平成２～令和２年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰

受賞団体一覧（年度別）（平成 12 年度までは国土庁長官賞。令和３年度表彰名を、過疎地域持続的発展優良事例表彰に改称）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成2年度	福島県	飯舘村	
	福井県	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	長野県	八坂村	
	高知県	大川村	
	大分県	姫島村	
	宮崎県	南郷村	
平成3年度	北海道	置戸町	
	群馬県	川場村	
	兵庫県	但東町	
	島根県	仁多町	
	長崎県	美津島町	
	鹿児島県	祁答院町	
平成4年度	北海道	鷹栖町	
	秋田県	皆瀬村	
	群馬県	上野村	
	山口県	本郷村	
	福岡県	矢部村	
	沖縄県	伊江村	
平成5年度	北海道	上湧別町	
	福島県	常葉町	
	京都府	美山町	
	和歌山県	清水町	
	岡山県	東粟倉村	
	大分県	天瀬町	
平成6年度	岐阜県	河合村	
	奈良県	野迫川村	
	広島県	三和町	
	徳島県	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	高知県	梼原町	
	宮崎県	綾町	
平成7年度	岩手県	藤沢町	
	新潟県	入広瀬村	
	兵庫県	五色町	
	佐賀県	七山村	
	沖縄県	竹富町	
平成8年度	岩手県	東和町	
	山梨県	芦安村	
	長野県	飯山市	
	広島県	高宮町	
	愛媛県	日吉村	
平成9年度	北海道	新得町	
	福島県	昭和村	
	新潟県	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	島根県	金城町	
	熊本県	東陽村	
平成10年度	山形県	西川町	
	富山県	山田村	
	兵庫県	朝来町	
	宮崎県	椎葉村	
	沖縄県	北大東村	
平成11年度	福島県	西会津町	
	静岡県	本川根町	
	鳥取県、島根県、岡山県、広島県	中国山地県境市町村連絡協議会	
	高知県	中土佐町	
	鹿児島県	宮之城町	
平成12年度	宮城県	登米町	
	山梨県	身延町、身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	岐阜県	明宝村	
	京都府	日吉町	
	宮崎県	西米良村	
平成13年度	新潟県	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	山梨県	早川町	
	島根県	石見町	
	大分県	久住町	
平成14年度	山形県	立川町	
	千葉県	富浦町	
	鳥取県	智頭町	
平成15年度	岩手県	沢内村	
	新潟県	山北町	
	宮崎県	諸塚村	

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成16年度	新潟県	高柳町	
	和歌山県	中辺路町森林組合	中辺路町
	沖縄県	東村	
平成17年度	北海道	しもかわアイスキャンドルミュージアム実行委員会	下川町
	福島県	飯舘村	
	徳島県	三好町	
	熊本県	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	大分県	大分大山町農業協同組合	日田市
平成18年度	北海道	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	宮城県	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	新潟県	魚沼市	
	熊本県	財団法人学びやの里	小国町
平成19年度	福島県	三島町	
	新潟県	高根フロンティアクラブ	朝日村
	奈良県	十津川鼓動の会	十津川村
	高知県	森の巣箱運営委員会	津野町
	大分県	株式会社つえエービー	日田市
平成20年度	福島県	元気な川内を創る会	川内村
	石川県	NPO 法人 やすらぎの里 金蔵（かなくら）学校	輪島市
	兵庫県	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市
	島根県	奥出雲町	
	沖縄県	伊是名村	
平成21年度	福島県	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
	長野県	木曽広域連合	
	和歌山県	田辺市	
	熊本県	水俣市	
平成22年度	北海道	下川町	
	静岡県	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	高知県	株式会社 大宮産業	四万十市
	鹿児島県	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
平成23年度	岩手県	葛巻町	
	島根県	谷自治振興会	飯南町
	愛媛県	株式会社 しまの会社	上島町
平成24年度	群馬県	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
	石川県	株式会社 のろし	珠洲市
	愛知県	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	島根県	邑南町	
平成25年度	新潟県	株式会社　あいポート仙田	十日町市
	愛知県	特定非営利活動法人　てほへ	東栄町
	島根県	江津市	
	徳島県	特定非営利活動法人　グリーンバレー	神山町
平成26年度	岐阜県	特定非営利活動法人　飛騨小坂 200 滝	下呂市
	三重県	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	島根県	益田市真砂地区	益田市
	鹿児島県	特定非営利活動法人　顕娃おこそ会	南九州市
平成27年度	宮城県	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
	島根県	雲南市	
	岡山県	あば村運営協議会	津山市
	長崎県	一般社団法人　南島原ひまわり観光協会	南島原市
平成28年度	青森県	八戸市	
	新潟県	公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター	長岡市
	奈良県	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語	川上村
	岡山県	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
	鹿児島県	特定非営利活動法人　Lab 蒲生郷	姶良市
平成29年度	新潟県	特定非営利活動法人　越後妻有里山協働機構	十日町市
	岐阜県	郡上市	
	徳島県	丹生谷　清流座	那賀町
	佐賀県	唐津市相知町　蕨野集落	唐津市
	鹿児島県	日置市高山地区公民館	日置市
平成30年度	北海道	特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ	上士幌町
	静岡県	企業組合　くれば	島田市
	広島県	青河自治振興会	三次市
	山口県	周防大島町	
令和元年度	青森県	プロジェクトおおわに事業協同組合	大鰐町
	静岡県	企業組合であい村蔵ら	松崎町
	和歌山県	天野の里づくりの会	かつらぎ町
	鹿児島県	特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花	枕崎市
令和2年度	新潟県	粟島浦村	粟島浦村
	福井県	和泉自治会	大野市
	愛知県	敷島自治区	豊田市
	三重県	特定非営利活動法人 のってこらい	熊野市
	佐賀県	ちやのきエンデューロ実行委員会	佐賀市

受賞団体一覧（都道府県別）（平成 12 年度までは国土庁長官賞。令和３年度表彰名を、過疎地域持続的発展優良事例表彰に改称）

都道府県	年度	団体名	市町村等名
北海道	平成3年度	置戸町	
	平成4年度	鷹栖町	
	平成5年度	上湧別町	
	平成9年度	新得町	
	平成17年度	しもかわアイスキャンドルミュージアム実行委員会	下川町
	平成18年度	清里町及び清里町花と緑と交流のまちづくり委員会	
	平成22年度	下川町	
	平成30年度	特定非営利活動法人　上士幌コンシェルジュ	上士幌町
青森県	平成28年度	八戸市	
	令和元年度	プロジェクトおおわに事業協同組合	大鰐町
岩手県	平成7年度	藤沢町	
	平成8年度	東和町	
	平成15年度	沢内村	
	平成23年度	葛巻町	
宮城県	平成12年度	登米町	
	平成18年度	鳴子ツーリズム研究会	大崎市
	平成27年度	くりはらツーリズムネットワーク	栗原市
秋田県	平成4年度	皆瀬村	
山形県	平成10年度	西川町	
	平成14年度	立川町	
福島県	平成2年度	飯舘村	
	平成5年度	常葉町	
	平成9年度	昭和村	
	平成11年度	西会津町	
	平成17年度	飯舘村	
	平成19年度	三島町	
	平成20年度	元気な川内を創る会	川内村
	平成21年度	特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会	二本松市
群馬県	平成3年度	川場村	
	平成4年度	上野村	
	平成24年度	神流マウンテンラン＆ウォーク実行委員会	神流町
千葉県	平成14年度	富浦町	
新潟県	平成7年度	入広瀬村	
	平成9年度	板倉町寺野ユートピア実行委員会	板倉町
	平成13年度	越後田舎体験推進協議会	東頸郡
	平成15年度	山北町	
	平成16年度	高柳町	
	平成18年度	魚沼市	
	平成19年度	高根フロンティアクラブ	朝日村
	平成25年度	株式会社　あいポート仙田	十日町市
	平成28年度	公益社団法人中越防災安全推進機構　ムラビト・デザインセンター	長岡市
	平成29年度	特定非営利活動法人　越後妻有里山協働機構	十日町市
	令和2年度	粟島浦村	粟島浦村
富山県	平成10年度	山田村	
石川県	平成20年度	NPO 法人 やすらぎの里　金蔵（かなくら）学校	輪島市
	平成24年度	株式会社 のろし	珠洲市
福井県	平成2年度	和泉村シャンソン村運営委員会	和泉村
	令和2年度	和泉自治会	大野市
山梨県	平成8年度	芦安村	
	平成12年度	身延町、身延駅前しょうにん通り商業協同組合	
	平成13年度	早川町	
長野県	平成2年度	八坂村	
	平成8年度	飯山市	
	平成21年度	木曽広域連合	
岐阜県	平成6年度	河合村	
	平成12年度	明宝村	
	平成26年度	特定非営利活動法人　飛騨小坂 200 滝	下呂市
	平成29年度	郡上市	
静岡県	平成11年度	本川根町	
	平成22年度	特定非営利活動法人 戸田どっとこむ	沼津市
	平成30年度	企業組合　くれば	島田市
	令和元年度	企業組合であい村蔵ら	松崎町
愛知県	平成24年度	田峰観音奉納歌舞伎谷高座	設楽町
	平成25年度	特定非営利活動法人　てほへ	東栄町
	令和2年度	敷島自治区	豊田市
三重県	平成26年度	島の旅社推進協議会	鳥羽市
	令和2年度	特定非営利活動法人 のってこらい	熊野市
京都府	平成5年度	美山町	
	平成12年度	日吉町	
兵庫県	平成3年度	但東町	
	平成7年度	五色町	
	平成10年度	朝来町	
	平成20年度	農村歌舞伎「葛畑座」	養父市

都道府県	年度	団体名	市町村等名
奈良県	平成6年度	野迫川村	
	平成19年度	十津川鼓動の会	十津川村
	平成28年度	公益財団法人　吉野川紀の川源流物語	川上村
和歌山県	平成5年度	清水町	
	平成16年度	中辺路町森林組合	中辺路町
	平成21年度	田辺市	
	令和元年度	天野の里づくりの会	かつらぎ町
鳥取県	平成14年度	智頭町	
島根県	平成3年度	仁多町	
	平成9年度	金城町	
	平成13年度	石見町	
	平成20年度	奥出雲町	
	平成23年度	谷自治振興会	飯南町
	平成24年度	邑南町	
	平成25年度	江津市	
	平成26年度	益田市真砂地区	益田市
	平成27年度	雲南市	
岡山県	平成5年度	東粟倉村	
	平成27年度	あば村運営協議会	津山市
	平成28年度	宇治地域まちづくり推進委員会	高梁市
広島県	平成6年度	三和町	
	平成8年度	高宮町	
	平成30年度	青河自治振興会	三次市
鳥取県、島根県、岡山県、広島県	平成11年度	中国山地県境市町村連絡協議会	
山口県	平成4年度	本郷村	
	平成30年度	周防大島町	
徳島県	平成6年度	上勝町・勝浦郡農協上勝彩部会	
	平成17年度	三好町	
	平成25年度	特定非営利活動法人　グリーンバレー	神山町
	平成29年度	丹生谷　清流座	那賀町
愛媛県	平成8年度	日吉村	
	平成23年度	株式会社 しまの会社	上島町
高知県	平成2年度	大川村	
	平成6年度	梼原町	
	平成11年度	中土佐町	
	平成19年度	森の巣箱運営委員会	津野町
	平成22年度	株式会社 大宮産業	四万十市
福岡県	平成4年度	矢部村	
佐賀県	平成7年度	七山村	
	平成29年度	唐津市相知町　蕨野集落	唐津市
	令和2年度	ちやのきエンデューロ 実行委員会	佐賀市
長崎県	平成3年度	美津島町	
	平成27年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市
熊本県	平成9年度	東陽村	
	平成17年度	水俣市久木野地域振興会	水俣市
	平成18年度	財団法人学びやの里	小国町
	平成21年度	水俣市	
大分県	平成2年度	姫島村	
	平成5年度	天瀬町	
	平成13年度	久住町	
	平成17年度	大分大山町農業協同組合	日田市
	平成19年度	株式会社つえエービー	日田市
宮崎県	平成2年度	南郷村	
	平成6年度	綾町	
	平成10年度	椎葉村	
	平成12年度	西米良村	
	平成15年度	諸塚村	
鹿児島県	平成3年度	祁答院町	
	平成11年度	宮之城町	
	平成22年度	特定非営利活動法人 プロジェクト南からの潮流	南さつま市
	平成26年度	特定非営利活動法人　顕娃おこそ会	南九州市
	平成28年度	特定非営利活動法人　Lab 蒲生郷	姶良市
	平成29年度	日置市高山地区公民館	日置市
	令和元年度	特定非営利活動法人子育てふれあいグループ自然花	枕崎市
沖縄県	平成4年度	伊江村	
	平成7年度	竹富町	
	平成10年度	北大東村	
	平成16年度	東村	
	平成20年度	伊是名村	

全国過疎地域連盟会長賞　平成３～令和２年度　過疎地域自立活性化優良事例表彰

受賞団体一覧（年度別）（平成 11 年度までは全国過疎地域活性化連盟会長賞。令和３年度表彰名を、過疎地域持続的発展優良事例表彰に改称）

年度	都道府県	団体名	市町村等名
平成3年度	青森県	市浦村	
	長野県	株式会社小川の庄	小川村
	愛知県	足助町緑の村協会	
	三重県	飯高町	
	徳島県	井川町	
平成4年度	岩手県	山形村	
	山梨県	小菅村	
	岐阜県	白川町	
	愛媛県	松野町	
	熊本県	泉村	
平成5年度	青森県	稲垣村	
	岩手県	住田町	
	富山県	山田村	
	香川県	池田町	
	長崎県	新魚目町	
平成6年度	北海道	サンセット王国	羽幌町
	北海道	鹿追町	
	宮城県	鷲沢町	
	長野県	開田村	
	石川県	吉野谷村	
	熊本県	清和村	
平成7年度	福島県	檜枝岐村	
	石川県	中島町	
	長野県	南信濃村	
	岡山県	美甘村	
	長崎県	長崎大島醸造株式会社	大島町
平成8年度	北海道	生田原町	
	滋賀県	朽木村	
	島根県	西ノ島町	
	長崎県	鷹島町	
	沖縄県	上野村	
平成9年度	秋田県	岩城町	
	茨城県	美和村	
	石川県	柳田村	
	岐阜県	馬瀬村	
	鹿児島県	里村	
平成10年度	北海道	新冠町	
	岩手県	大東町	
	千葉県	和田町	
	岡山県	加茂川町	
	長崎県	高島町	
平成11年度	北海道	丸瀬布町	
	秋田県	大森町	
	三重県	宮川村	
	大分県	直入町	
平成12年度	北海道	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	石川県	白峰村	
	山口県	豊田町	
	徳島県	日和佐町	
平成13年度	石川県	珠洲市	
	鳥取県	株式会社まちづくり日野	日野町
	広島県	作木村	
	熊本県	菅地域振興会	矢部町
平成14年度	北海道	浜益小劇場	浜益村
	静岡県	妻良観光協会及び 子浦観光協会	南伊豆町
	和歌山県	美山村	
	広島県	永野を考える会	神石町
	愛媛県	河辺村	
	沖縄県	南大東村	
平成15年度	北海道	常呂カーリング協会	常呂町
	宮城県	食の博物館実行委員会	加美町
	鳥取県	日南町	
	広島県	NPO 法人 INE OASA	大朝町
	徳島県	勝浦町	
平成16年度	秋田県	西木村	
	山形県	尾花沢市	
	鳥取県	佐治村	
	大分県	豊後高田商工会議所	豊後高田市
平成17年度	青森県	NPO 法人グリーンエネルギー青森	鰺ヶ沢町
	京都府	久美浜百珍の会	京丹後市
	島根県	日南川交流会	邑南町
	愛媛県	宮窪水産研究会	今治市
平成18年度	奈良県	曽爾村	
	山口県	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	高知県	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
	宮崎県	串間市笠祇地区	
	鹿児島県	山ケ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
平成19年度	北海道	標津町	
	島根県	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	福岡県	添田町観光ガイドボランティア	添田町
平成20年度	青森県	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	長野県	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	大分県	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
平成21年度	長野県	栄村	
	徳島県	美郷商工会	吉野川市
	沖縄県	ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市
平成22年度	長野県	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	岐阜県	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
平成23年度	北海道	素敵な過疎づくり　株式会社	厚沢部町
	島根県	株式会社　萩の会	益田市
	宮崎県	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
平成24年度	北海道	鹿追町	
	宮城県	NPO 法人 ひっぽ UI ターンネット	丸森町
	愛知県	豊根村	
	広島県	生桑振興会	安芸高田市
平成25年度	福島県	会津山都そば協会	喜多方市
	岐阜県	特定非営利活動法人　奥矢作森林塾	恵那市
	長崎県	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	長崎県	若松ふるさと塾	新上五島町
	熊本県	寄ろ会みなまた	水俣市
	鹿児島県	一般社団法人　なかわり生姜山農園	西之表市
平成26年度	三重県	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
	徳島県	もんてこい丹生谷運営委員会	那賀町
平成27年度	福島県	一般社団法人　IORI 倶楽部	三島町
	広島県	田幸ふるさとランチグループ	三次市
	香川県	五名活性化協議会	東かがわ市
	鹿児島県	大野地区公民館	垂水市
平成28年度	長野県	特定非営利活動法人　ふるさと	長野市
	静岡県	特定非営利活動法人 がんばらまいか佐久間	浜松市
	奈良県	特定非営利活動法人　うちのの館	五條市
	和歌山県	真田いこい茶屋	九度山町
平成29年度	福井県	池田町	
	愛知県	一般社団法人　おいでん・さんそん	豊田市
	愛媛県	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
平成30年度	岡山県	中和地域づくり委員会	真庭市
	岡山県	梶並地区活性化推進委員会	美作市
	山口県	特定非営利活動法人 ゆうゆうグリーン俵山	長門市
	徳島県	四国の秘境　山城・大歩危妖怪村	三好市
	愛媛県	まちづくり学校双海人	伊予市
令和元年度	北海道	夕張市	
	青森県	わきのさわ温泉湯好会	むつ市
	奈良県	NPO 法人五新線再生推進会議	五條市
	奈良県	株式会社黒滝森物語村	黒滝村
	島根県	GOTO ☆ワンハート	江津市
令和2年度	福島県	石川町	石川町
	京都府	ＮＰＯ法人「気張る！ふるさと丹後町」	京丹後市
	熊本県	くまもと☆ 農家ハンター	宇城市
	熊本県	美里フットバス 協会	美里町

受賞団体一覧（都道府県別）（平成11 年度までは全国過疎地域活性化連盟会長賞。令和３年度表彰名を、過疎地域持続的発展優良事例表彰に改称）

都道府県	年度	団体名	市町村等名
北海道	平成6年度	サンセット王国	羽幌町
	平成6年度	鹿追町	
	平成8年度	生田原町	
	平成10年度	新冠町	
	平成11年度	丸瀬布町	
	平成12年度	歴史を生かしたまちづくりネットワーク推進協議会	江差町、上ノ国町、松前町
	平成14年度	浜益小劇場	浜益村
	平成15年度	常呂カーリング協会	常呂町
	平成19年度	標津町	
	平成23年度	素敵な過疎づくり　株式会社	厚沢部町
	平成24年度	鹿追町	
	令和元年度	夕張市	
青森県	平成3年度	市浦村	
	平成5年度	稲垣村	
	平成17年度	NPO 法人グリーンエネルギー青森	鰺ヶ沢町
	平成20年度	津軽鉄道サポーターズクラブ	五所川原市
	令和元年度	わきのさわ温泉湯好会	むつ市
岩手県	平成4年度	山形村	
	平成5年度	住田町	
	平成10年度	大東町	
宮城県	平成6年度	鷲沢町	
	平成15年度	食の博物館実行委員会	加美町
	平成24年度	NPO 法人 ひっぽ UI ターンネット	丸森町
秋田県	平成9年度	岩城町	
	平成11年度	大森町	
	平成16年度	西木村	
山形県	平成16年度	尾花沢市	
福島県	平成7年度	檜枝岐村	
	平成25年度	会津山都そば協会	喜多方市
	平成27年度	一般社団法人　IORI 倶楽部	三島町
	令和2年度	石川町	石川町
茨城県	平成9年度	美和村	
千葉県	平成10年度	和田町	
富山県	平成5年度	山田村	
石川県	平成6年度	吉野谷村	
	平成7年度	中島町	
	平成9年度	柳田村	
	平成12年度	白峰村	
	平成13年度	珠洲市	
福井県	平成29年度	池田町	
山梨県	平成4年度	小菅村	
長野県	平成3年度	株式会社小川の庄	小川村
	平成6年度	開田村	
	平成7年度	南信濃村	
	平成20年度	株式会社 まちづくり木曽福島	木曽町
	平成21年度	栄村	
	平成22年度	財団法人 妻籠を愛する会	南木曽町
	平成28年度	特定非営利活動法人　ふるさと	長野市
岐阜県	平成4年度	白川町	
	平成9年度	馬瀬村	
	平成22年度	社会福祉法人 高山市社会福祉協議会	高山市
	平成25年度	特定非営利活動法人　奥矢作森林塾	恵那市
静岡県	平成14年度	妻良観光協会及び 子浦観光協会	南伊豆町
	平成28年度	特定非営利活動法人　がんばらまいか佐久間	浜松市
愛知県	平成3年度	足助町緑の村協会	
	平成24年度	豊根村	
	平成29年度	一般社団法人　おいでん・さんそん	豊田市
三重県	平成3年度	飯高町	
	平成11年度	宮川村	
	平成26年度	ビジョン早田実行委員会	尾鷲市
滋賀県	平成8年度	朽木村	
京都府	平成17年度	久美浜百珍の会	京丹後市
	令和2年度	ＮＰＯ法人「気張る！ふるさと丹後町」	京丹後市
奈良県	平成18年度	曽爾村	
	平成28年度	特定非営利活動法人　うちのの館	五條市
	令和元年度	NPO 法人五新線再生推進会議	五條市
	令和元年度	株式会社黒滝森物語村	黒滝村
和歌山県	平成14年度	美山村	
	平成28年度	真田いこい茶屋	九度山町
鳥取県	平成13年度	株式会社まちづくり日野	日野町
	平成15年度	日南町	
	平成16年度	佐治村	
島根県	平成8年度	西ノ島町	
	平成17年度	日南川交流会	邑南町
	平成19年度	武良づくり企画実行委員会	隠岐の島町
	平成23年度	株式会社　萩の会	益田市
	令和元年度	GOTO ☆ワンハート	江津市
岡山県	平成7年度	美甘村	
	平成10年度	加茂川町	
	平成30年度	中和地域づくり委員会	真庭市
	平成30年度	梶並地区活性化推進委員会	美作市
広島県	平成13年度	作木村	
	平成14年度	永野を考える会	神石町
	平成15年度	NPO 法人　INE　OASA	大朝町
	平成24年度	生桑振興会	安芸高田市
	平成27年度	田幸ふるさとランチグループ	三次市
山口県	平成12年度	豊田町	
	平成18年度	大潮地区活性化推進協議会	周南市
	平成30年度	特定非営利活動法人　ゆうゆうグリーン俵山	長門市
徳島県	平成3年度	井川町	
	平成12年度	日和佐町	
	平成15年度	勝浦町	
	平成21年度	美郷商工会	吉野川市
	平成26年度	もんてこい丹生谷運営委員会	那賀町
	平成30年度	四国の秘境　山城・大歩危妖怪村	三好市
香川県	平成5年度	池田町	
	平成27年度	五名活性化協議会	東かがわ市
愛媛県	平成4年度	松野町	
	平成14年度	河辺村	
	平成17年度	宮窪水産研究会	今治市
	平成29年度	四国西予ジオパーク推進協議会	西予市
	平成30年度	まちづくり学校双海人	伊予市
高知県	平成18年度	土佐れいほく農業協同組合	土佐町
福岡県	平成19年度	添田町観光ガイドボランティア	添田町
長崎県	平成5年度	新魚目町	
	平成7年度	長崎大島醸造株式会社	大島町
	平成8年度	鷹島町	
	平成10年度	高島町	
	平成25年度	雪浦ウィーク実行委員会	西海市
	平成25年度	若松ふるさと塾	新上五島町
熊本県	平成4年度	泉村	
	平成6年度	清和村	
	平成13年度	菅地域振興会	矢部町
	平成25年度	寄ろ会みなまた	水俣市
	令和2年度	くまもと☆ 農家ハンター	宇城市
	令和2年度	美里フットバス 協会	美里町
大分県	平成11年度	直入町	
	平成16年度	豊後高田商工会議所	豊後高田市
	平成20年度	株式会社 夢のぼり工房	杵築市
宮崎県	平成18年度	串間市笠祇地区	
	平成23年度	戸川地区石垣の村管理組合	日之影町
鹿児島県	平成9年度	里村	
	平成18年度	山ケ野金山文化財保護活用実行委員会	霧島市
	平成25年度	一般社団法人　なかわり生姜山農園	西之表市
	平成27年度	大野地区公民館	垂水市
沖縄県	平成8年度	上野村	
	平成14年度	南大東村	
	平成21年度	ぐすくべグリーンツーリズムさるかの会合同会社	宮古島市

総務省地域力創造グループ過疎対策室

〒100-8926　東京都千代田区霞が関 2-1-2
TEL 03-5253-5536　FAX 03-5253-5537
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/2001/kaso/kasomain0.htm

全国過疎地域連盟

〒101-0047　東京都千代田区内神田 1-5-4　加藤ビル３階
TEL 03-5244-5827　FAX 03-5244-5828
http://www.kaso-net.or.jp/